

# 仙台・宮城DCスタート 県内に先駆けオープニング



DC期間中、新幹線のJRくりこま高原駅と市内を結ぶ臨時バスの出発式も行われました。



オープニングイベントで市観光PRキャラクターの委嘱状を受けた、市観光物産協会のゆるキャラ「はっとん」。任期は「気力・耐力・愛嬌が続くまで」となっています

今年4月から6月まで県内各地で展開される大型観光キャンペーン「仙台・宮城デステーション・キャンペーン（DC）」を前に、市では、3月31日にオープニングイベントを開催しました。

教育資料館前で行われたオープニングイベントには、市や県、JRなどから関係者が

出席。小雪のちらつく天候を吹き飛ばすよう、キャンペーンの成功を誓いました。

この日は、市観光物産協会の観光キャラクターで昨年末からさまざまなイベントで活動しているゆるキャラ「はっとん」に、布施孝尚市長から市観光PRキャラクターの委嘱状が手渡されました。

## 学校140年の歴史に幕 森小・森幼稚園の閉校・閉園式



市に返納する森小の校旗を掲げる高橋校長と児童の代表

この4月から佐沼小学校と統合するため閉校となる森小学校（高橋弘一校長、児童数41人）で、3月24日に閉校記



式典では、森小最後の児童たちが同校の校歌などを熱唱し、別れを惜しみました

念式典が開催されました。同じく閉園となる森幼稚園の閉園式と併せて行われました。

会場の森小学校体育館には、在校生や卒業生、地域住民など約400人が出席。式では、布施孝尚市長が「子どもたちの将来を一番に考え、統合、閉園を決断した関係者から敬意を表します」とあいさつ。最後はみんなで森小の校歌を歌い、140年続いた地域のよりどころに別れを告げました。森小学校は、今後施設を一部改修し、森公民館として活用する予定です。

## 災害時応援協定締結式



災害時応援協定を結び握手する（右から）高橋支部長、布施孝尚市長、堀内会長

市では、地震や風水害など災害時の応援として、元自衛官らでつくる県隊友会登米支部（高橋栄久支部長）や市内運送業者12社で組織する市福興協力輸送部会（堀内勝会長）と、3月19日に協定を結びました。災害時の情報収集や支援助資の緊急輸送、保管などに協力をいただきます。

また、3月21日には、東日本大震災の災害公営住宅を地元産のスキヤアカマツを使って建設する協定を、市木造災害公営住宅建設推進協議会（鈴木健一会長）と結びました。

## 市内事業者らと協定 災害時や復興住宅に力



災害公営住宅への地元産木材使用の建設協定を結び握手する布施市長（右）と鈴木会長

同協議会は、今年2月に県森林組合連合会、県建設業協会登米支部、市内3森林組合など8団体で発足しました。



指定管理の協定書を取り交わす片倉教育長（右）と団体の代表者

### 4公民館が指定管理に 登米、豊里、石越、津山が移行

3月27日、4月から市と市教育委員会から新たに指定管理を受ける団体の代表者らが出席し、協定書の調印式が中田生涯学習センターで行われました。今回、指定管理者制度を導入する施設は登米、豊里、石越、津山の四つの公民館と三つの社会教育関係施設、二つの社会体育施設です。

調印式では、各団体の代表者と片倉敏明教育長がそれぞれ協定書に署名。指定管理を受ける5団体を代表し、とよまコミュニケーション運営協議会の須藤勝利会長が「お引き受けした施設を地域に根ざした活動拠点となるよう頑張ります」と力強く述べました。

## 新たに4事業者が認定

### 六次産業化法認定で報告

市内の4事業者が、このほど国の六次産業化法に基づく農林水産大臣からの認定を受け、3月21日に布施孝尚市長に認定の報告をしました。

今回認定を受けたのは、抗酸化作用を失わずに野菜をパウダー化した商品化に取り組む「南おとちグリーンステーション」（米山町）、東北

初となるドライエイジングビーフ「たんち村」構想の「千葉忠畜産」（米山町）、餅の製造、高品質な麩の製造などに取り組む「樹近藤農産」（南方町）、長沼エビの復活、えびせんの開発に取り組む「わかば農場（株）」（追町）です。今回の認定で、市内で認定を受けたのは8事業者となりました。



六次産業化の認定報告に市役所を訪れた4事業者（中央が布施市長）